

標茶町立標茶小学校 フィールド学習 2 回目 実施内容

《概要》

[日程] 2022年8月26日(金)

[参加者] 5年生児童38名

[案内] 山本、安田(公益財団法人 北海道環境財団)
石下自然保護官補佐(環境省釧路自然環境事務所)

[フィールド学習の目的]

- ・各児童の課題に応じて、目的を持ってフィールドでの観察、試料採集等を行う。
- ・これまでの学習を通して得た自然を見る目を持って、自然を観察し、新たな発見を得る。

[実施プログラムの概要]

9:20 達古武オートキャンプ場到着

9:35 オリエンテーション

9:40 グループに分かれてフィールドでの活動

11:30 フィールド学習終了

《実施内容(記録)》

■オリエンテーション(9:35)

○フィールドについての説明、散策する際の注意点確認、スタッフの紹介(北海道環境財団 山本)

■グループに分かれてフィールドでの活動(9:40)

○湖畔(カヌーポート)(全員で湖畔に移動)

大雨が何度か降り達古武湖の水位が高い。通常の時と比べて1m程は水位が上がっている。前は5月後半に来たが、風景に変化は感じるだろうか。(草が増えていると児童の声)これからさらに増えてきて9月中旬頃までがピーク。湖一面が草で覆われた状態になる。1回目の訪問で今年の黒くなったヒシが湖畔に多く落ちていたが、浮いているヒシを良く見ると実が育ってきていることを観察できる。ヒシが水面を覆うことで光が湖の中に入っていなくなり、元々いた植物が減ってきているという問題がある。ここでは何年も前からヒシを減らそうと様々な取り組みをしている。

ヒシをテーマにしている児童はこの場所でヒシを採集したり観察を行って欲しい(該当児童が湖畔に残る)



○キャンプ場敷地(湖側)

通常はキャンプ場の芝生が広がっている場所だが、一面水たまりとなっている。1回目は湖畔まで行ったが、今日は危ないので近づくことができない。水たまりの中を良く見ると、湖にいる魚が多く泳いでいる。魚をテーマにしている子はここでも観察してみたい。



○キャンプ場横を流れる小川

湖に近い場所では湖の水と一緒に小川の姿が見えないが、丘の方に少し歩くと湖の水が届いていない場所では小川の流れが確認できる。1回目の訪問で、この水は湧き水とお話した。ここにいる魚は湖に住んでいる魚と種類が違うかもしれないので、ここでも魚をテーマにしている子は観察して欲しい。（該当児童が水たまりや小川で魚を観察）



○遊歩道での観察、試料採集

遊歩道を歩きながら、それぞれの児童がテーマとしている植物等を探し、観察を行う。湧き水をテーマとした児童は、湧き水の流れが確認できる場所で持参したペットボトルに水を採集し、ヤチボウズ、キノコ、湿原の植物、土壌の様子など、それぞれのテーマに応じたものを観察し、許可を得た試料などを採集する。



○オートキャンプ場横の白樺の凍裂

凍裂をテーマとした数名の児童はオートキャンプ場横の凍裂したシラカバを観察し、亀裂の長さ、深さ、その様子などを観察する。

■オートキャンプ場センターハウス到着・フィールド学習終了（11：30）